

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	形態機能学Ⅰ			担当講師	杉野 一行			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期	
概 要	人間は、日々自分の身体を使いながら日常生活を過ごしている。看護は、生活する人の健康の保持・増進・回復、そして生死に関わる。そのために看護師は人間の健康な生活行動を支えている身体づくりと働きを熟知して対象に関わることが重要である。本科目では、からだの支持と運動のしくみ、情報の受容のしくみについて学ぶ。」							
到達目標	1. からだの支持と運動のしくみを理解する。 2. 情報の受容のしくみを理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	からだの基礎知識（1） ホメオスタシス	講 義
2	からだの基礎知識（2） フィードバック機構	講 義
3	からだの基礎知識（3） 細胞とは	講 義
4	からだの基礎知識（4） 組織とは	講 義
5	からだの支持と運動（1） 神経から筋への指令と筋の収縮	講 義
6	からだの支持と運動（2） 意図的でない運動：反射	講 義
7	からだの支持と運動（3） 意図的な運動：随意運動①	講 義
8	からだの支持と運動（4） 意図的な運動：随意運動②	講 義
9	からだの支持と運動（5） 骨格・骨格筋・関節	講 義
10	からだの支持と運動（6） 活動・休息の基礎知識①	講 義
11	からだの支持と運動（7） 活動・休息の基礎知識②	講 義
12	情報の受容のしくみ（1） 目の構造と機能	講 義
13	情報の受容のしくみ（2） 耳の構造と機能	講 義
14	情報の受容のしくみ（3） コミュニケーションの基礎知識	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」医学書院 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版会
参考書	
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	形態機能学Ⅱ			担当講師	日高 輝久			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期	
概 要	人間は、日々自分の身体を使いながら日常生活を過ごしている。看護は、生活する人の健康の保持・増進・回復、そして生死に関わる。そのために看護師は人間の健康な生活行動を支えている身体づくりと働きを熟知して対象に関わることが重要である。本科目では、内部環境の恒常性を保つしくみと、恒常性を維持するための物質の流通とその経路について、さらに呼吸の働きについて学ぶ。							
到達目標	1. 内部環境の恒常性を保つしくみについて理解する。 2. 恒常性を維持するための物質の流通と、その流通経路について理解する。 3. 呼吸のはたらきについて理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	呼吸のはたらき（1） 呼吸器の構造	講 義
2	呼吸のはたらき（2） 呼吸器の機能・呼吸運動	講 義
3	呼吸のはたらき（3） 呼吸運動の神経支配・肺活量	講 義
4	呼吸のはたらき（4） ガス交換・呼吸運動の調節	講 義
5	血液の循環とその調節（1） 流通の媒体 血液①	講 義
6	血液の循環とその調節（2） 流通の媒体 血液②	講 義
7	血液の循環とその調節（3） 物質の流通経路① 血管・リンパ管	講 義
8	血液の循環とその調節（4） 物質の流通経路② 脾臓	講 義
9	血液の循環とその調節（5） 流通の原動力① 心臓	講 義
10	血液の循環とその調節（6） 流通の原動力② 血圧	講 義
11	内部環境の恒常性（1） 体液	講 義
12	内部環境の恒常性（2） 血漿	講 義
13	内部環境の恒常性（3） 体温	講 義
14	内部環境の恒常性（4） 生命維持と生活行動	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」医学書院 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版会
参考書	
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	形態機能学Ⅲ			担当講師	杉野 一行			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期	
概 要	人間は、日々自分の身体を使いながら日常生活を過ごしている。看護は、生活する人の健康の保持・増進・回復、そして生死に関わる。そのために看護師は人間の健康な生活行動を支えている身体づくりと働きを熟知して対象に関わることが重要である。本科目では、情報処理の受容と処理を行うしくみと内臓機能の調節機構、外部環境からの防御のしくみについて学ぶ。							
到達目標	1. 情報の受容と処理を行うしくみについて理解する。 2. 内臓機能の調節機構について理解する。 3. 外部環境からの防御のしくみについて理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	情報処理のしくみ（1） 中枢神経 神経系の構造と機能①	講 義
2	情報処理のしくみ（2） 中枢神経 神経系の構造と機能②	講 義
3	情報処理のしくみ（3） 中枢神経 脊髄と脳①	講 義
4	情報処理のしくみ（4） 中枢神経 脊髄と脳②	講 義
5	情報処理のしくみ（5） 末梢神経 脊髄神経と脳神経	講 義
6	情報処理のしくみ（6） 脳の高次機能	講 義
7	内臓機能の調節（1） 自律神経による調節	講 義
8	内臓機能の調節（2） ホルモンの作用機序	講 義
9	内臓機能の調節（3） 全身の内分泌腺と内分泌細胞	講 義
10	内臓機能の調節（4） ホルモン分泌の調節	講 義
11	内臓機能の調節（5） 恒常性維持のためのホルモンの働き	講 義
12	外部環境からの防御（1） 皮膚の構造と機能	講 義
13	外部環境からの防御（2） 自然免疫機構	講 義
14	外部環境からの防御（3） 獲得性免疫機構	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」医学書院 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版会
参考書	
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	形態機能学Ⅳ			担当講師	長戸 康和			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期	
概 要	人間は、日々自分の身体を使いながら日常生活を過ごしている。看護は、生活する人の健康の保持・増進・回復、そして生死に関わる。そのために看護師は人間の健康な生活行動を支えている身体づくりと働きを熟知して対象に関わることが重要である。本科目では、栄養の消化と吸収のしくみ、体液の調節と尿の生成のしくみ、生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ。							
到達目標	1. 栄養の消化と吸収のしくみについて理解する。 2. 体液の調節と尿の生成のしくみについて理解する。 3. 生殖・発生と老化のしくみについて理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	栄養の消化と吸収（1） 腹部消化管の構造と機能①	講 義
2	栄養の消化と吸収（2） 腹部消化管の構造と機能②	講 義
3	栄養の消化と吸収（3） 腹部消化管の構造と機能③	講 義
4	栄養の消化と吸収（4） 食の基礎知識①	講 義
5	栄養の消化と吸収（5） 食の基礎知識②	講 義
6	体液の調節と尿の生成（1） 腎臓の構造と機能	講 義
7	体液の調節と尿の生成（2） 尿生成の機序とその調節	講 義
8	体液の調節と尿の生成（3） 体液調節の機序	講 義
9	体液の調節と尿の生成（4） 排泄の基礎知識①	講 義
10	体液の調節と尿の生成（5） 排泄の基礎知識②	講 義
11	生殖・発生と老化のしくみ（1） 男性生殖器	講 義
12	生殖・発生と老化のしくみ（2） 女性生殖器	講 義
13	生殖・発生と老化のしくみ（3） 受精と胎児の発生	講 義
14	生殖・発生と老化のしくみ（4） 成長と老化	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」医学書院 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版会
参考書	
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒
科目名	形態機能学Ⅴ			担当講師	川上 智史	
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期 後期
概 要	人間は、日々自分の身体を使いながら日常生活を過ごしている。看護は、生活する人の健康の保持・増進・回復、そして生死に関わる。そのために看護師は人間の健康な生活行動を支えている身体づくりと働きを熟知して対象に関わることが重要である。本科目では、形態機能学Ⅰ～Ⅳでの学習のフィードバックをし、人体の仕組みとはたらきについて学びを深める。					
到達目標	1. からだの支持と運動および情報の受容のしくみを理解する。 2. 血液循環および呼吸のしくみを理解する。 3. 栄養の消化と吸収および体液の調整と尿の生成のしくみを理解する。					

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	日常生活行動と生理的機能	講 義
2	からだの支持と運動（１）	講 義
3	からだの支持と運動（２）	講 義
4	情報の受容のしくみ（１）	講 義
5	情報の受容のしくみ（２）	講 義
6	血液の循環とその調節（１）	講 義
7	血液の循環とその調節（２）	講 義
8	呼吸のはたらき（１）	講 義
9	呼吸のはたらき（２）	講 義
10	呼吸のはたらき（３）	講 義
11	栄養の消化と吸収（１）	講 義
12	栄養の消化と吸収（２）	講 義
13	体液の調節と尿の生成（１）	講 義
14	体液の調節と尿の生成（２）	講 義
15	まとめ、終講試験/解答・解説	講 義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能①「解剖生理学」医学書院 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版社	
参考書		
備 考		

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	疾病と治療Ⅰ			担当講師	辻 正富 廣瀬 好文			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	疾病により健康を障害された人の回復過程を促進する援助を行うためには、形態機能学で学習した人体の正常な形態と機能について理解した上で、疾病によりそれらがどのように変化するか、どのように症状として現れるのか、それに対しどのような治療、処置、検査を行うのか等の知識を身に付ける必要がある。呼吸器・循環器・血液・造血器において、臨床で遭遇する頻度の高い疾病を中心に、それらがもたらす身体内部の変化を学習し、看護実践の基本となる知識を修得する。							
到達目標	1. 呼吸機能の障害と治療について理解する。 2. 循環機能の障害と治療について理解する。 3. 血液・造血機能の障害と治療について理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	呼吸機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義
2	呼吸機能障害と治療(2) 感染症・アレルギー疾患	講義
3	呼吸機能障害と治療(3) 閉塞性疾患・拘束性肺疾患	講義
4	呼吸機能障害と治療(4) 肺循環障害・換気異常	講義
5	呼吸機能障害と治療(5) 腫瘍・胸腔疾患	講義
6	循環機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義
7	循環機能障害と治療(2) 先天性心疾患	講義
8	循環機能障害と治療(3) 虚血性心疾患・心膜疾患・心筋症	講義
9	循環機能障害と治療(4) 心不全・弁膜疾患・ショック	講義
10	循環機能障害と治療(5) 血圧異常・不整脈疾患・血管の疾患	講義
11	血液・造血機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義
12	血液・造血機能障害と治療(2) 赤血球系疾患	講義
13	血液・造血機能障害と治療(3) 白血球系疾患	講義
14	血液・造血機能障害と治療(4) 出血性疾患	講義
15	まとめ・終講試験	講義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 成人看護学② 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学③ 循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院	
参考書		
備 考	担当講師：1回目～10回目 辻正富先生 11回目～14回目 廣瀬好文先生	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	疾病と治療Ⅱ			担当講師	辻 正富			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	疾病により健康を障害された人の回復過程を促進する援助を行うためには、形態機能学で学習した人体の正常な形態と機能について理解した上で、疾病によりそれらがどのように変化するか、どのように症状として現れるのか、それに対しどのような治療、処置、検査を行うのか等の知識を身に付ける必要がある。消化器、代謝・内分泌機能において、臨床で遭遇する頻度の高い疾病を中心に、それらがもたらす身体内部の変化を学習し、看護実践の基本となる知識を修得する。							
到達目標	1. 消化機能の障害と治療について理解する。 2. 肝臓・胆嚢・膵臓の機能の障害と治療について理解する。 3. 代謝・内分泌機能の障害と治療について理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	消化機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義
2	消化機能障害と治療(2) 内科的治療①	講義
3	消化機能障害と治療(3) 内科的治療②	講義
4	消化機能障害と治療(4) 外科的治療①	講義
5	消化機能障害と治療(5) 外科的治療②	講義
6	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義
7	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害と治療(2) 内科的治療	講義
8	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害と治療(3) 外科的治療	講義
9	代謝・内分泌機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義
10	代謝・内分泌機能障害と治療(2) 視床下部・下垂体の異常、甲状腺疾患	講義
11	代謝・内分泌機能障害と治療(3) 副甲状腺疾患・副腎疾患	講義
12	代謝・内分泌機能障害と治療(4) 性腺疾患・多発性内分泌腫瘍	講義
13	代謝・内分泌機能障害と治療(5) 糖代謝異常	講義
14	代謝・内分泌機能障害と治療(6) 脂質代謝異常・体液の調節障害・栄養の異常	講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院	
参考書		
備 考		

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	疾病と治療Ⅲ			担当講師	畑山 徹 仲村 一郎		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	疾病により健康を障害された人の回復過程を促進する援助を行うためには、形態機能学で学習した人体の正常な形態と機能について理解した上で、疾病によりそれらがどのように変化するか、どのように症状として現れるのか、それに対しどのような治療、処置、検査を行うのか等の知識を身に付ける必要がある。脳・神経系、運動器において、臨床で遭遇する頻度の高い疾病を中心に、それらがもたらす身体内部の変化を学習し、看護実践の基本となる知識を修得する。						
到達目標	1. 脳・神経機能の障害と治療について理解する。 2. 運動機能の障害と治療について理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	脳神経機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義
2	脳神経機能障害と治療(2) 脳血管障害	講義
3	脳神経機能障害と治療(3) 神経系の腫瘍	講義
4	脳神経機能障害と治療(4) 神経系の感染症	講義
5	脳神経機能障害と治療(5) 機能性疾患・神経変性疾患	講義
6	脳神経機能障害と治療(6) 脱髄性疾患・脊髄・脊椎疾患	講義
7	脳神経機能障害と治療(7) 末梢神経疾患	講義
8	脳神経機能障害と治療(8) 筋疾患・代謝性疾患・中毒性疾患	講義
9	運動機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義
10	運動機能障害と治療(2) 変形性関節症・関節リウマチ	講義
11	運動機能障害と治療(3) 脊椎・脊髄疾患	講義
12	運動機能障害と治療(4) 脊髄損傷・末梢神経の損傷と障害	講義
13	運動機能障害と治療(5) 骨粗鬆症・骨折	講義
14	運動機能障害と治療(6) スポーツ障害・骨・軟部腫瘍	講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑩ 運動器 医学書院	
参考書		
備 考	担当講師：1回目～8回目 畑山 徹先生 9回目～14回目 仲村 一郎先生	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	疾病と治療Ⅳ			担当講師	中村博志 平澤知之	日高輝久 辻正富	大久保道子 村居幸夫
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	疾病により健康を障害された人の回復過程を促進する援助を行うためには、形態機能学で学習した人体の正常な形態と機能について理解した上で、疾病によりそれらがどのように変化するか、どのように症状として現れるのか、それに対しどのような治療、処置、検査を行うのか等の知識を身に付ける必要がある。腎・泌尿・生殖器、生体防御機能、感覚器において、臨床で遭遇する頻度の高い疾病を中心に、それらがもたらす身体内部の変化を学習し、看護実践の基本となる知識を修得する。						
到達目標	1. 排泄機能の障害と治療について理解する。 2. 生殖機能の障害と治療について理解する。 3. 生体防御機能の障害と治療について理解する。 4. 感覚機能の障害と治療について理解する。 5. 歯科・口腔系の障害と治療について理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法	
1	排泄機能障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義	中村博志
2	排泄機能障害と治療(2) 腎不全	講義	
3	排泄機能障害と治療(3) 腎・泌尿器疾患	講義	
4	生殖機能障害と治療(1) 男性生殖器	講義	
5	生体防御機能の障害と治療(1) 主要症状と病態生理	講義	大久保道子
6	生体防御機能の障害と治療(2) 免疫不全・アレルギー疾患	講義	
7	生体防御機能の障害と治療(3) 膠原病	講義	
8	生殖機能障害と治療(2) 女性生殖器・乳腺の疾患	講義	日高輝久
9	感覚機能障害と治療(1) 皮膚疾患①	講義	
10	感覚機能障害と治療(2) 皮膚疾患②	講義	
11	感覚機能障害と治療(3) 眼科疾患	講義	平澤知之
12	感覚機能障害と治療(4) 耳鼻咽喉①	講義	辻 正富
13	感覚機能障害と治療(5) 耳鼻咽喉②	講義	
14	歯科・口腔系疾患	講義	村居幸夫
15	まとめ・終講試験	講義	

評価方法	客観試験		
教科書	系統看護学講座 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑫ 皮膚 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑬ 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑮ 歯・口腔 医学書院		
参考書	看護学テキスト N i C E 「疾病と治療Ⅲ」 南江堂		
備 考			

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	病理学			担当講師	日高 輝久			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	なぜ身体に不調が起こるのか、身体の臓器・組織にどのような変化が起こっているのか、その変化を原因別に学ぶ。それらの知識を活用して対象に起こっている変化を根本から理解できるように学習する							
到達目標	1. 身体のはたらきが正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	看護と病理学	講義
2	先天異常と遺伝子異常（1）	講義
3	先天異常と遺伝子異常（2）	講義
4	代謝障害（1）	講義
5	代謝障害（2）	講義
6	循環障害（1）	講義
7	循環障害（2）	講義
8	炎症と免疫、膠原病（1）	講義
9	炎症と免疫、膠原病（2）	講義
10	炎症と免疫、膠原病（3）	講義
11	感染症	講義
12	腫瘍（1）	講義
13	腫瘍（2）	講義
14	老化と死	講義
15	まとめ・終講/解答・解説	講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進① 「病理学」 医学書院
参考書	
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	生化学			担当講師	高妻 孝光			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期	
概 要	人間の体内では分子レベルで見ると様々な物質が変化し、協調しながら健康を維持している。看護を実践するうえで、身体を構成している物質は何か、それらの物質がどのように変化して生体の恒常性が保たれているのか理解することは大切である。疾患をもつ対象の理解と看護がつながるように学習する							
到達目標	生体を構成している物質の機能および調節機能を理解する							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	生化学を学ぶための基礎知識	講義
2	タンパク質・タンパク質代謝（1）	講義
3	タンパク質・タンパク質代謝（2）	講義
4	糖質・糖質の代謝（1）	講義
5	糖質・糖質の代謝（2）	講義
6	脂質・脂質の代謝（1）	講義
7	脂質・脂質の代謝（2）	講義
8	核酸代謝	講義
9	代謝異常	講義
10	酵素の性質と働き	講義
11	水と無機質・体液	講義
12	ホルモンと生理活性物質	講義
13	ビタミン	講義
14	血液と尿	講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 「生化学」 医学書院
参考書	
備 考	※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	薬理学			担当講師	山崎 令子			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	薬物は生体の病理学的変化に作用して回復に向けた効果的な働きかけを行う一方、生体の機能を低下させてしまう働きも大きい。このような薬物の持つ効果と副作用を正しく理解する必要がある。そのため、薬物療法における看護師の重要な役割を理解し、人体への薬物の働きかけや薬物に対する生体側の反応など、薬物治療に関する基礎的知識を学ぶ。							
到達目標	1. 薬物が人体に及ぼす影響やその管理について理解する。 2. 主作用・副作用などの薬物作用（薬理作用）について理解する。 3. 各種疾患、病態に用いられる薬物の薬理学的作用、作用機序について理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	薬物治療の目指すもの	講義
2	薬理作用 薬物動態	講義
3	薬効に影響する因子 有害作用	講義
4	抗感染症薬（1）基礎知識 抗菌薬	講義
5	抗感染症薬（2）特殊な感染症治療薬 感染症治療における問題	講義
6	抗がん薬 免疫治療薬	講義
7	心臓・血管系に作用する薬物（1）抗高血圧薬・利尿薬	講義
8	心臓・血管系に作用する薬物（2）血液に作用する薬物	講義
9	物質代謝に作用する薬物	講義
10	抹消での神経活動に作用する薬物	講義
11	中枢神経に関する薬物	講義
12	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義
13	輸液剤・輸血剤	講義
14	消毒薬・看護業務に必要な薬の知識	講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進「薬理学」 医学書院
参考書	
備 考	※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	微生物と感染症			担当講師	高妻 孝光		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期	前期
概 要	目に見えない微生物は、地球環境を浄化するためにとっても重要である一方、健康と生命を脅かす感染症を起こす。このことから看護師には微生物と感染症の知識が不可欠となる。本科目では、ある微生物はどのような病気になり、どのような症状を呈するのか、それに対しどのように診断し、治療するのかを学ぶ。						
到達目標	1. 人間の生活と微生物の関係について理解する。 2. 微生物の性質を理解する。 3. 感染症の成立、感染機構、検査、診断、治療について理解する。 4. 健康状態を脅かす微生物の人体に及ぼす影響を理解する。 5. 病原微生物の感染予防について理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	微生物と微生物学	講義
2	細菌の性質	講義
3	真菌の性質 原虫の性質	講義
4	ウイルスの性質	講義
5	感染と感染症(1) 感染とは・感染の成立から発症、治癒まで	講義
6	感染と感染症(2) 細菌感染・真菌感染・ウイルス感染	講義
7	感染に対する生体防御機構・感染経路からみた感染症(1)	講義
8	感染に対する生体防御機構・感染経路からみた感染症(2)	講義
9	感染症の検査と診断・治療	講義
10	主な病原微生物(1) 病原細菌と細菌感染症	講義
11	主な病原微生物(2) 病原真菌・病原原虫と感染症	講義
12	主な病原微生物(3) おもなウイルスとウイルス感染症	講義
13	感染症の現状と対策	講義
14	感染予防対策・院内感染対策	講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進「微生物学」医学書院	
参考書		
備 考		

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	栄養学			担当講師	池田 早苗		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	人間が健康な生活を営むためには生命維持・健康保持に必要な栄養素の種類、需要と供給のバランスを考えた必要量、さらに摂取方法について理解する必要がある。また、発達段階ごとに、現在の生活環境の変化やライフスタイルの変遷に伴う食の問題を理解し、生化学で学んだ知識をもとに、健康の保持増進、健康障害の回復に向けた食事に関する知識を習得する。						
到達目標	1. 生命維持、健康保持における栄養の意義を理解する。 2. 栄養素の消化・吸収・代謝および生理作用について理解する。 3. 健康障害時の食事療法の基本を理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	栄養とは・健康な生活と食生活（1）	講義
2	栄養とは・健康な生活と食生活（2）	演習・演習
3	ライフステージと食事（1）	講義
4	ライフステージと食事（2）	講義
5	療養生活と栄養（1）	講義
6	療養生活と栄養（2）	講義
7	療養生活と栄養（3）	演習・演習
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講義
評価方法	客観試験	
教科書	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち「臨床栄養学」メディカ出版 はじめての食品成分表 女子栄養大学出版部 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病協会 文光堂	
参考書		
備 考		

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	治療論			担当講師	仲村 一郎			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1 年次	学 期	後期	
概 要	疾病の治療技術は飛躍的に進歩している。また、それらを受ける患者のニーズは多様化し、疾病も複雑化している。本科目では、患者の治療に必要な最新知識・技術が統合された治療についての概要を学び、治療を受けながら日常生活を送る対象の日常生活援助に活用するための基礎知識を身につける。							
到達目標	1. 疾病の回復を促進する核治療法の原理を理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	治療法とは 治療法の分類・EBM	講 義
2	放射線療法	講 義
3	化学療法	講 義
4	麻酔法	講 義
5	手術療法 輸血	講 義
6	透析療法	講 義
7	内視鏡的治療	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験		
教科書	新体系看護学全書 「現代医療論」 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 「治療法概説」 メヂカルフレンド社		
参考書			
備考			

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	社会保障制度			担当講師	大森 泰			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	人は生まれてから死ぬまでの間に多くの社会保障の制度の支えを受けて生活している。そこで、社会保障制度と社会福祉の概要を学ぶとともに、社会の変化に伴い社会保障・社会福祉のあり方も変化することを学習する。そして、本科目では、医療保障・介護保障、所得保障、公的扶助を中心に学習する。							
到達目標	1. 社会保障と社会福祉の概要を体系的に理解する。 2. 現代の社会福祉制度の背景を理解する。 3. 医療保障および介護保障について理解する。 4. 所得保障、公的扶助について理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	社会保障制度と社会福祉	講 義
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講 義
3	医療保障・介護保障（1）	講 義
4	医療保障・介護保障（2）	講 義
5	医療保障・介護保障（3）	講 義
6	所得保障	講 義
7	公的扶助	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系看 「社会保障・社会福祉」 医学書院
参考書	
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	社会福祉			担当講師	大森 泰			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	看護が対象とするのは生活する人である。人は生活しながら生きていく中で様々な社会福祉制度の支えを受けている。自分が生活に困窮した時、或いは障害を負った時のことを考えながら、社会福祉とは何か、社会施策にはどのようなものがあるのか、福祉の分野で働く人達の職種とその仕事内容は何かを学び、障害をもつ対象のその人らしい生活を支えるために、看護が他職種と協働・連携することを理解する。							
到達目標	1. 高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉の分野について、その実態と課題を知り、それに対してどのような施策が展開されているかを学ぶ。 2. さまざまな社会福祉援助について学ぶと共に、医療・看護・福祉の連携について学ぶ。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	社会福祉の分野とサービス（1）高齢者福祉	講 義
2	社会福祉の分野とサービス（2）障害者福祉	講 義
3	社会福祉の分野とサービス（3）児童家庭福祉	講 義
4	社会福祉実践と医療・看護（1）社会福祉援助とは	講 義
5	社会福祉実践と医療・看護（2）さまざまな社会福祉援助技術	講 義
6	社会福祉実践と医療・看護（3）医療・看護・福祉との連携	講 義
7	社会福祉の歴史	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系看 「社会保障・社会福祉」 医学書院
参考書	
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	地域の福祉活動			担当講師	大森 泰			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	前期	
概 要	地域社会の希薄化が言われるようになったが、淡路大震災の後 地域社会つながりの大切さが強調されるようになった。このように地域社会の持つ意味を考え、地域福祉がどのように策定されていくのか、そして、自分たちが生活する地域にはどのような問題があり、どのような地域福祉活動が行われているのかを学ぶ。							
到達目標	1. 地域社会の持つ意味を考えるとともに、人々の地域社会のかかわりについて考える。 2. 地域集団の現状と課題を理解する。 3. 地域福祉の実施体制及び実際を理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	社会福祉の分野とサービス（1）高齢者福祉	講 義
2	社会福祉の分野とサービス（2）障害者福祉	講 義
3	社会福祉の分野とサービス（3）児童家庭福祉	講 義
4	社会福祉実践と医療・看護（1）社会福祉援助とは	講 義
5	社会福祉実践と医療・看護（2）さまざまな社会福祉援助技術	講 義
6	社会福祉実践と医療・看護（3）医療・看護・福祉との連携	講 義
7	社会福祉の歴史	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系看 「社会保障・社会福祉」 医学書院
参考書	
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	地域とリハビリテーション			担当講師	長谷川 聡 岡崎 宏、			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	後期	
概 要	地域リハビリテーションの概念を理解し、地域・在宅における医療専門職の役割・現状・課題を理解し、医療専門職に求められる理念と知識、地域におけるチーム医療の重要性を学ぶ。また、地域生活に必要な生活支援や種々の身体機能の評価法、地域リハビリテーションの内容や地域連携パス、関連サービスなどとの関係性について理解を深める。高齢者・障害者にとって地域生活に重要な制度や支援体制、地域包括ケアシステムについて総括的に学習する。							
到達目標	1. 地域リハビリテーションの概念を理解し、地域包括ケアシステムについて理解できる。 2. 地域で生活するために必要な生活支援や身体機能評価の知識を理解して活用できる。 3. 地域における多職種連携およびチーム医療と地域特性に応じた支援体制について理解できる。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	地域リハビリテーションとノーマライゼーション、国際機能分類ICF	講 義
2	地域リハビリテーションにおける介護保険制度と地域包括ケアシステム	講 義
3	在宅リハビリテーションと地域リハビリテーションとの関連／地域連携パス、終末期リハビリテーション	講 義
4	身体機能評価方法とADL・IADL評価（FIM、バーセルインデックス）	講 義
5	身体機能評価方法と嚥下評価、精神・認知機能評価	講 義
6	身体機能評価方法と高次脳機能障害評価	講 義
7	高齢者・障害者における地域生活支援と多職種連携	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	必要に応じて資料を配布
参考書	系統別看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	公衆衛生			担当講師	酒井 聖子			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	後期	
概 要	公衆衛生学は生活者の健康の保持・増進を目的に、常に個々の住民の要請を捉えつつ、広く地域に対する政策から実施に向けた活動をするための実践的学問である。本科目では、21世紀の健康社会実現に向けた保健・医療・福祉そして環境総合的な理解を促し、看護職の役割を再認識する。その上で、各看護学領域の公衆衛生活動につなげていく。							
到達目標	1. 国民の健康に関する状況と生活環境との関係を理解する。 2. 生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動について理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	公衆衛生の理解	講 義
2	人口と公衆衛生	講 義
3	環境と公衆衛生・食と公衆衛生	講 義
4	国民の健康と保健統計	講 義
5	疾病の疫学と予防	講 義
6	公衆衛生活動の実際	講 義
7	保健行政・公衆衛生における課題と展望	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 「公衆衛生学」 メヂカルフレンド社「国民衛生の動向」 厚生統計協会
参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 「公衆衛生」 医学書院
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	看護と法律			担当講師	小西知世 長島光一 横沢亘			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	後期	
概 要	人間社会は沢山の法に囲まれ、法によってその生活は成り立っている。看護も多くの法規によって規制され、そして守られている。対象が「人間」である看護においては、対象の権利を守るためにも日常的に法規に立ち戻る必要がある。本科目では、法の概念を理解するとともに、社会生活と法のつながりを学ぶ。そして、医療に関する法規と看護師に必要な法規を学ぶ。							
到達目標	1. 法の世界における基本的な概念・用語・論理の進め方を学ぶ。 2. 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律について理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	法の概念	講 義
2	厚生行政のしくみ	講 義
3	看護活動と医療関係法規(1) 看護法	講 義
4	看護活動と医療関係法規(2) 医師法・医療法	講 義
5	看護活動と医療関係法規(3) 医療関係資格法	講 義
6	看護活動と医療関係法規(4) 保健衛生法規	講 義
7	看護活動と医療関係法規(5) 薬務法・労働関係法規	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④「看護をめぐる法と制度」 メディカ出版
参考書	
備 考	